



史  
歷  
解



四十一

服部文庫  
117  
415



117  
415

史歴解

廣嶼 杜效君則父 著

序例

曆家ノ法ニ天ノ總メクリ三百六十五度四分度ノ一トス四分度ノ一ハ  
一度ヲ四ツニワケタル其ツブリト云フナリスヘテ分ノイッソトアルコトハ  
如世意得ヘシ日輪ノ天ヲメクリ行ク一日ニ一度ノアユミニシテ  
遲シ月ハ一日ニ天ヲメクル十二度九分度ノ七ニテ其アユミ疾シ  
コレモ十三度ノハシタカ一度ヲ十九ニワケタルセツブリト云フ  
スヘテ天ノ體ト云ハ二十八宿ノ星ヲバシメ衆星ヲサシテ天ノ  
体トス一昼夜ニ左メクリ三旋リテ一日ニ三度ワリテ天体西

へウツルナリ日十月ト右行トテ右メクリニ自分カミアリテ天体ノ  
メクリカハス西ヨリ東へ日ノウツルサレ氏今日見ル所白ハ  
毎朝東ニ出テ西へ入ルユコレモ左旋ト見ユレ氏天体ニシタカフ  
者ナル共自ラノ互ニ見ヘスナリテ故ニ右行ハ見ヘヌナリ月ノ三日  
四日五日ト漸ニ東へスムラ見テ日月ノ右行ナルヲ理合スル  
コノ左旋右行イテ周髀算經ニタトヘサシテオモラク磨石白  
ヲ左メクリニワスニソノ石白ハシテ蟻ハ右メクリニ廻ル右行ナレ氏全  
体ノ白カ左メクリナルユニ見ル所ハ蟻モ左メクリニ見ユト云ヘリヨキ  
譬ナリサテ天ト日月ト如此ニ左右へウツリメクルユ三月ト日トノヤ  
ト星<sup>本モ股リ字</sup>曜日ハニチカラ三百六十五度トサタメ先モコノ日月ノ互ニヨリ

テ推求タルモノナリ一度ト云トイカホトリナルヲ初季ノ者多久  
理合セス近クサトサハ今日人ノ見ル所白輪ノ大ササシワタシテ  
一度トコ、ロエヘシ日輪ノサシワタシナルモノ三百六十五トソノシメ日  
輪ノ四分アリテ天ノ總メクリト知ヘシ日輪ハ一日ニ度ツ、アユミ  
ス、云モノナルユヘ日輪ノサシワタシカ乃チ一度ナリ伊藤原藏カ制度  
通ニ度ト云コラサトシ解セルト迂遠ナク笑スシ一歳ノ日数  
モ周天ト同シク三百六十五度四分日ノ一ナリ日ト月ト行ノ差ヲ  
以テ周天ノ度ヲ除キテ一月ノ日数二十九日トソノ餘分九百四十  
分日ノ四百九十九ヲ得ルナリ餘分ヲ刻分ニスルハ五十三刻餘ナリ  
コレ日ト月ト相会スル辰ナリ一ケ年百月十二会二十九日餘ヲ

十二ヨロ合セテ周歲ノ日数ト引合セテ減シ残タル所カ一年分ノ  
閏日ナリクワシクイハ各三分ノ母子アルニ減課分ノ法ヲ以テ  
分母相乘シテ三千<sup>七</sup>百六十分日ノ三千三百〇八トナル約分法ヲ  
ツメテ歲閏ハ十日ト九百四十分日ノ八百二十七ヲ得ルコノ閏  
餘三年ツミテ一月ノ日数ニミツコニオヒテ閏月ヲ置クニ歲閏  
ト云ハコレナリコノ九百四十四ヲ古歴法ニテ日法トスケ日白ノ  
小ワリナリ九百四十ト云名目ノ出トコロハ日ヲ七十六度トシ月ヲ  
一千〇一十六度ヲ得分子アルハ通分内子  
ニテ減課分ノ法ニ用互ニ相減シテ九百四十ト  
云同数ヲ得コレ日法ノイッル所ナリコノ日法ニテ周天ヲ通分内  
子シタル二万七千七百五十九度ヲ得テ実トシ日法ニテ除ケハ一月

ノ日数ヲ得ルナリ季クイハカクゴトシ右ノ一ヶ月ノ日数二十九日ヲ  
十二ヨセアワセテ三百四十八日トナルツノハシタ四百九十九ヲ合セテ  
五十九百八十八ト九百四十ツノ日法ノ一日フリノ小ワリヲ一日アリク  
トクリヨセ合テ六日トナル三百四十八ニ加ヘテ三百五十四日トル  
ソノ餘リ九百四十分日ノ三百四十八アリ九百四十ノ一日フリニシタ  
サル数が三百四十八アルナリコノ十二ヶ月アル歲ヲ歴法ニテ小歲  
ト云又右ノ如クシテモ十三ヨセ合スレハ三百八十四日トソノ餘分  
九百四十分日ノ八百四十七ナリコレヲ大歲十三ヶ月アル年ノ日分  
トノ数トスタ上ハ前年十月ノ朔ノ日ト分トニ大歲ノ日数ヲ大ハ  
歲ニツテ加ハ當年ノ求所ノ十月ノ朔ノ日ト分トニルニテ千支ヲ

日ニケルニ六十甲子 コレヲ六十甲子ト云人紀法上云圖下見ニテ六十日トイテ度モ六十甲子  
満ル分ハノツキ去テ用ヒス六甲ニタラヌアリノ数ヲトメテ甲子ヨリ  
カソヘテソノ数ニアクルエトノツサキノエトヲ求ル所ノ支干ス曆書ニ  
算外トイハル数ノ外一ツヲ用ユト云フコトニテコノアタリノツナリソレ  
故紀法圖ニ甲子ノ処ヲ空トシルシオク算外ノ勘定ヲ用ヒス  
直ニ支干ニ数目ノ記號ヲ注シオクヲ用ル為ナリ如此ニシテ  
初ヨリ大小歳ノ日数ヲシタルコトニハ六甲ニテ除キ去リオキ其  
アレル数ヲ大歳ノ翌年ニ二二日ヲ大餘ノ加数トシ八百四十  
七ヲ小餘ノ加数トス小歳ノ翌年ニ加ルニ五十四日ヲ大餘トシ三  
百四十八ヲ十餘トシ年ニシテ朔ヨリ翌年ノツノ月朔支干ヲ

求ル加数トスモレ翌月ノ朔ヲ求トスハ大餘二十九小餘四百九  
十九ヲ加ラテ定法トスコレモ月ニ段ニ加ヘクシテ大餘六十二  
満ルタケハ除去テソノ餘リノ数ヲ紀法圖ニ引合セ見レハ支  
干シルナリ小餘モ日法ノ四百四十二満レハ一日アリノ小ワリナハ  
コレヲヨセアケテ一日トシ大餘ニツ加ユルニ又前年ノ氣節  
ヨリ幾年ノ氣節ヲ求ルニ一歳ニ二十四氣ノ節ト申シテ一  
氣ノ日ト分トハ十五日ト三十二分七テルニスナチヨセアセテ周  
歳ノ日数ニテ大小歳ノ別ナキコトニハ冬至ノ日ト分ト加シテハ  
ソレハ周歳ノ日ト分トヲ加ヘテ求ル所ノ冬至ノ日ト分トスコレモ六  
ニテ去リヌリヲ用ルコトニハ前カタヨリ六甲ニテ周歳ヲ除キ去リ

ソノアミル五日ヲ大餘トシ四分日ノ小餘トス年ニソノ氣ヨリ  
翌年ノソノ氣ヲ求ル加數トスコノ書ニ小餘ヲハトスル三十二  
ハニテ四分日ノト云ト同シナリコレニテハ分レケレハ二十四氣ヲ  
各自ニ求ル分母ニ存クセシ為ナリ又直ニ次ノ氣ヲ求ントナハ  
大餘十五小餘セヲ加ルヲ定法トシテ次ノ氣ノ日分ナリコレモ大  
餘六十甲子ニ滿ルハ除キ去テ用ヒスソノ餘ノ數ヲ紀清園ヲ  
ラシテ支干ヲ得ルナリ小餘三十二ニ滿ルハ一日ノ小ワリナルニ  
ニクリアケテ大餘ハツヲ加フルナリアニリアレハツノ餘ノ數ヲト  
メテ小餘イクトト又サテ小餘七ト云ハ三十二分ノ七ト云フナリ  
三十二分ヲ分母トスルモノハ周歲ノ日數ヲ二十四ニ除クニ周歲

ノ日數ヲ通分内子シテ千四百六十一トナルコレヲ實トシ四  
今日ノ一ノ四分ニ二十四氣ノ二十四ヲ乘シテ九十六トナルヲ法トシ  
テコレヲ除ケハ十五日九十六分日ノ二十一トナルコレヲ約分法ヲ  
ツメテ三十二分日ノ七トスルモノヘスヘテ大餘ト云フハ支干ヲレ  
ス為ノ數ナリイクラノ數ニテモ六甲ノ數ニテ除キ去テ其ノ六十二  
タラヌ數ヲトメテ大餘ト云六十一テウト滿ルハ無大餘ナリ六十二ヨリ外滿  
レハ六甲子ブリノ數タケ除去テ用ヒズ餘ヲ用元ナリタトハハ大  
餘五十四ナレハ甲子ヨリ五十四メト云フニテ甲子ヨリ五十四ノハ  
丁巳ニアル算外ヲ用元ナリト云ハツスメテ戊午ヲアタリノエトス約  
法圖ニ甲子ヲ空ト記シオクニ冬千ニ五十四トスル所スハ千ナリ

ノエトナリスヘテ曆書ニ空トアルハ甲子ノ日ナリコノ篇ニ无大餘ト  
アルモ甲子ノ日ナリ小餘ト云ハ一日ノ大餘ノ餘分ニテ一日ニシテ  
ナリ九百四十ヲ日法トシ一日ノ小ウリト定メキ名ニ九百四十二  
ニタヌウチハ小餘ナリ九百四十二滿レハタリアケテ一日トシテ大  
餘ヘ一ヲ加ヘ益ヌ九百四十二日分ナルニアケテ小餘ニ用ヒヌナリ  
モシコノ小餘ヲ算スレハ加時ヲ得ラルナリヌヘテ大餘ト云エト  
注スル為ノ數小餘ハ大餘ノ餘分トコロテ可ナリ大餘小餘ト  
云名目ハ古曆法ニノミアリテ漢曆以後ノ術ニ見ヘササテ閏ノ  
置ク月ヲ定ムルハソノ法ニツ一歲中ノ毎月ノ朔ノ支干ヲ推求  
テ書レルレ置又二十四氣ヲ正月ヨリ十二月ニテソノ日ノ支干ヲ求

オキテ月ニニクリニハ何ノ節ハ何月ノイツ幾日何ノエトノ日トシ  
ル、ユヘ月ミヲ見アヌレハ本月ノ節氣ト中氣トソノ月ニアル月モ  
アリアルヒハ本月ノ節ハ前月ニアリテ翌月ノ節本月ニアルトモ  
アリソノ内前月ノ晦日アタリニ前月ノ中氣アリテ本月ノ節ハ  
月ノ半ニアリ又本月ノ中ハ翌月ノ朔日ニアリテ本月ニ節氣  
ノ三ツハカリアリテ中氣ナキ月アリコノ中氣ナキ月ニテ、メテ  
閏月トシテ定ムルナリ朔ト氣トテ一年中ヲ推メオキタル上ニテ  
閏月ヲ定メ置クナリタトハ太初三年ノ閏ヲ推求ルニ六月己  
卯ノ朔ヲ月小尽ニテ二十九日丁未ノ日六月ノ中大暑ナリ翌  
月戊申朔ニテ十五日壬戌七月ノ節立秋ナリコノ月ハ大尽ニテソ

次月朔戊寅ノ日七月ノ中處暑ノ氣ナリコレ六月ノ翌月ハ節氣ノ三ツアリテ中氣ナキユヘニコノ月ヲ閏ト定ムルナリコレハ大概ナリコレニテコソ篇ノ術ヲ尽ス又改クニ前年前月ノ氣朔ヲ求ル逆推ノ法アリ下ニ詳ニ示ス

○吾先師春臺先生嘗テ春秋曆一篇ヲ著ス古歴ノ法ニヨツテ春秋二百四十二年ノ間ノ曆ヲ推求テ作ルノ法載セテ篇首ニアリ古歴ノ法ヲ示ス初奪ノ士大率歴術ニ暗シテ曉サル者效カコノ篇ヲ熟解シテ覽ハ春秋曆ノ一書モ亦瞭然タルコノ篇史歷ノ解ノ三ツアラス古歴ノ法ソレヲニ尽シ

空甲子 十甲戌 二十甲申 三十甲午 四十甲辰 五十甲寅

	一乙丑	二乙亥	一乙酉	一乙未	一乙巳	一乙卯
紀	二丙寅	二丙子	二丙戌	二丙申	二丙午	二丙辰
六	三丁卯	三丁丑	三丁亥	三丁酉	三丁未	三丁巳
甲	四戊辰	四戊寅	四戊子	四戊戌	四戊申	四戊午
法	五己巳	五己卯	五己丑	五己亥	五己酉	五己未
之	六庚午	六庚辰	六庚寅	六庚子	六庚戌	六庚申
圖	七辛未	七辛巳	七辛卯	七辛丑	七辛亥	七辛酉
	八壬申	八壬午	八壬辰	八壬寅	八壬子	八壬戌
	九癸酉	九癸未	九癸巳	九癸卯	九癸丑	九癸亥

右十行六位ニテ甲子ヨリ癸亥ニテ六十甲子オウル甲子甲戌甲申甲



午甲辰甲寅イツレモ千ノ首ノ名甲九六六ッアワセテ六甲トテ六十  
 甲子ノ一ニナル大餘六十六六十三テウト満ニ拂ヒ除キテ无大餘  
 トス无大餘ハ乃チ空ナリ第一行ノ第一位ニアル甲子コレナリ十ヨリ  
 十九ニテ第二位ノ横通ナリ二十ヨリ二十九ニテ第三位停横通コレナリ  
 下コレニ放フサハ大餘一十六第二行ノ第一位三十注シオケル乙丑  
 コレナリ二三ヨリ以下九ニテコノ第一位ニアリアルハ大餘十七八第一  
 行ノ第二位二十甲戌トアル甲戌コレナリ又大餘十一十六第二行  
 ノ第二位二乙亥トアル乃チコレナリ十二十三ヨリ以下十九ニテイ  
 ツレモヲ二位ニアリ大餘二十ヨリ二十九ニテ第三位ニアリ以下三十  
 四十五十九ニテコレニナラフ布置セル数目ノ記號ヲテラシテ求メ

算外ノ法ヲ用ヒ直ニワノ数ヲトメテ六甲ノエトラ得ルナリ

序例終

歷術甲子篇

索隱曰以十一月朔旦冬至得甲子甲子是陽氣  
支干之首故以甲子命歷術為篇首非謂此年歲

在甲子也

建子ノ月十月甲子ノ朔日前夜半子ノ刻冬至ノ加持ヲ

歷元トスル故コレヲ天正朔ト云日月ノ交會ナリ冬至同日

辰ヲ云ニスヘテ當年ノ歷元ハ前年ノ十月ヲ歷首トスルナリ

甲子ハ十干十二支ノハシメニテ支干八日ノ名ニテ歷ヲ專用ス

モノスニ甲子篇ト名ララスセリ太初元年ノ歲星ノル如

甲子ト云ニラス○按ニ古歷ノ法ニ日法ヲ九百四十トノ太

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

初曆ノ日法ハ八十一ナリ鄧平落下闳カ算ヲ布ク所ハ八十一分  
曆ト云シカレハ三統曆ト日法ハ同シト見ヘリ太初曆ノ  
術ハ後世ニ傳ラサルニ其法イカニテ今詳カニシカケル  
漢書ノ律曆志ニ拠ルニシカリシカレニ甲子篇ニ用ル所ノ日法  
古曆ノ九百四十ト云法ヲ用ヒテ推タルモノナレハコノ篇ハ司馬  
遷カ本書ニアラス褚少孫カ輩古曆ノ法ヲ用ヒテ補タ  
ルナリ真ノ太初曆ニアラサルナリ司馬貞カ索隱ニモ全  
ク史遷カ本書トフモルハ疎謬ナリ音非暗也  
太初元年歳名焉逢陽 索隱曰甲歳雄也漢書作闕逢亦音焉與此音同

十幹ヲ歳陽トス尔雅ニ見ヘリ故ニ歳雄トス焉闕同  
音ニテ平声ナリ

攝提格

索隱曰寅歳陰也此依爾雅甲寅之歳若據漢志  
以為丙子之年也  
焉逢攝提格ハ尔雅ノ文ニ拠ルニ甲寅歳ナリ漢書律  
曆志ニ拠テ見レ太初元年ハ丙子ノ歳トス又志ニ元年十丑  
トイヘル文アリ同ク太初元年ニテ如此ニ三通ニイヘルナリ古来  
ヨリ多ク疑アルナリ中根元珪カ天文図解發揮ニコレヲ  
辨シオケルモ隔靴搔痒ノ説ニテ分曉ナラス今定メテ元年

是千八百五トス當時ノ人元年ハ丁丑トオホヘ居タルハ後漢  
書ノ律歷志ニ漢作太初歷元以丁丑ト云ヘリ又前漢書  
礼志ニ太初四年ニ大宛王ヲ誅シテ宛馬ヲ獲ル時詩ア  
リソノ詞ニ天馬徠執徐時ト云ヘリ執徐辰ノ歳ナリシカハ  
太初四年辰ノ年ナレバ元年ハ丑ナルト必セリシカルヲ丙子ト  
イヘルイカニトナレハ三統歷ニヨリテ推算スルニ太初元年前  
年元封六年十月朔旦冬至ニ歳星ハ星紀女ノ六度ニ  
アリ星紀ハ十二宮ノウチニテ子ノ宮ナリソノ年翌十二月三  
日ニ六歳星ハ玄扈女ノ九度ニアラルナリスヘテ前年ノ十  
一月ヲ歷首ニスルイニテ大歳ハ十一月ノ歳在ラ以テ云フ

ナレバ太歳ハ丙子ナレバ太初元年丙子ト云ヘルナリ元年ノ支  
干ノ實ハ丁丑ナリスヘテ古ハ太歳ノ所在ヲ以テソノ年ノ支  
干ヲ云ナリ後世ハ歳在ニカマラス六十甲子ヲオフト段々  
年ニ配スルニ年ハ子ナレバ歳在ハ子ノ宮ニハナレ星ト年  
トカマハスナリユカニ三統歷ナトソノ漸トオモハルサテ又甲寅ト  
イヘルトハコノ篇ノミニアラス前漢ノ律歷志ニモ以前歷上  
元泰初四十六百一十七歳至於元封七年復得闕逢攝提  
格之歳トアリシカハ元封七年ヨリ以前ノ歷元トスル所四  
千六百十七年ニ日月五星合璧連珠ノ如クアツリタリシ  
日出度タメシラ今ヨニ又復セルヲ牽強シテカクイヘル

年リ上元ニアマカリテ云出タルト見ヘタリソノ年ノ支干  
実ニ甲寅トイヘルニアラサルヘシコノ下詳ニ統歷解ニ見  
ヘタルニ彼書ニユツリテ今コニ録セス注家ノ輩太初歷  
ト三統歷トノ立法ニヨツテ異同アリテ太歳同シカニサル  
ヤウニ思フハ深ク考ヘサルノ謬ナリ

### 月名畢聚

索隱曰謂月值畢及娵訾也畢月雄也聚月雌也  
尔雅釋天三月在甲曰畢トアリテソノ下乙丙丁各其  
名月アリ邢昺カ疏ニ云十一月得甲則曰畢辜ト又ニク  
正月得甲則曰畢取トアリコレ日陽ノ甲乙ヲ月ニ配スルノ

名ナリ聚ハ取ト同シコニ十一月ヲ畢聚ト云ハ尔雅ト異ナリ  
イツレモ建子十一月ノイラサシテ云ニ索隱ノ説ハ尔雅ヲ  
考ヘスコノ前ノ注ニモ聚音娵トシテ二十八宿ノ中ノ娵訾ト  
云星ノ名トス畢モ亦星ノ名トスコレハ後世ノ歷ニ廿八宿  
一ノ值月值日ノイラスコハ值月ノ宿度ノ星ヲ云ニアラス  
星ノ名トスルハ誤ナリ

### 日得甲子

索隱曰謂十一月冬至朔旦得甲子也  
亦十一月朔日ノ支干ハ甲子ナルヲ云ニ冬至ト同日ナリ  
正義曰置大餘五十四筭毎年加五十四日滿六

十日除之奇算留之每至閏後一年加二十三算  
亦滿六十日除之奇算留之若纔足六十日明年  
云無大餘無小餘也又明年更置五十四算如上  
法置小餘三百四十八算每年加三百四十八分  
滿九百四十分成一日歸上餘算留之若至閏後  
一年加八百四十七分亦滿九百四十分成一日  
歸大餘奇算留之明年更加三百四十八算如上  
法也

コレ八年に加數定法凡例通釋ナリ本文ニツカリタル  
注ニハラス下文ノ為ニコレニマヘテイハル十月夜半朔旦冬

至同日辰ノ後ハソノ次ヨリ年々ノ加數五十四ヲ定法ト  
スルナリ已ニ無大餘ニテ甲子ノ日ヲ得タルニコレノ次ハ五  
十四ヲ置テ十一月ノ朔ノ大餘トシテ支干ヲシタルナリ年々  
コレ五十四トシテ加數ノ定法トシテ加ヘテ翌年ニ十一月  
朔ノ支干ヲ求ルニ五十四ニ五十四ヲ増加スレハ百八十九  
コレノ中六十甲子ノ分六十ヲシテ四十八ナルコレノ數ハ  
ソノ下ニ置コレヲ奇算留之ト云ナリ奇算上云モ餘算ト  
云モ同シテ右ノ四十八ヲ紀法圖ニ引アハスレハ壬子ノ日ニ  
イツレモ段々ニ定法ヲ加ヘテ六甲ニ滿ルハ拂ヒノケテアリ  
類ヲトメテ紀法圖ニ照シテ支干ヲシタルニモレ閏月アリ

元本年ノ十月ノ朔ヲ求ルニ  
乃翌年ノ為ニ  
歴首ノ天正朔ニ五十四ノ定  
法ヲ八加ヘスレテ二十三ノ数ヲ定法トシテ加エコレモ六甲ニ  
満ルハ六十タケ拂ノケテ餘リノ数ヲコレ置紀法圖ニ引  
アハセテ支干ヲツクルナリイツニモ閏ノアタリタル月次ノ十月  
朔ヲ求ルニコレニ定法トシテ加フルニスヘテ五十四ニモ二十三  
ニモ加ヘ足シテテウト六十甲子ニテナリ方餘分モナケルハ無大餘  
無小餘ト書レ置ナリコレ甲子白ニ右ノ二十三ヲ加ヘ元次ニハ  
又常ノ法ノ如クツノ翌年ノ十月朔ヲ求ルニ更ニ五十四ヲ加  
ナリイツモ上ノ法ノ如ク六甲ニ満ルハ去テ用ヒスアアリノ数ヲ  
トメテ紀法圖ニアテ、支干ヲツクルナリ下ノ小餘モ加減ノ

シカタ大餘ト同シコレヲ先小餘ノ次年ハ一日分ノ小ワリノ  
九百四十二満タヌ所ノ三百四十八ト云数ヲ置又ソノ次年分ノ  
上ニ定法ニ三百四十八ヲ加テ六百九十六ト九ノ日法九百  
四十二満ナルニ其ノ小餘六百九十六トシレ置之年ニ三百  
四十八ヲ定法トシ加ヘテモレノ数日法ノ九百四十二満ルハ一日  
分ノ小ワリトハコレヲ一日トナシテ大餘ノ方ヘ加フ加ヘタケ  
小餘ノ中ニテ九百四十八ヲ減シ去リソノ餘ル数ヲコレテ小餘イ  
クト昏レ置シモレ又閏月アリ元次ノ天正朔小餘ヲ求ルニ  
見存ノ小餘ヲコレ置三百四十八ト云定法ノ加数ヲ用ヒス別ニ  
三百四十七ト云数ヲ定法トシ加ルニコレモ亦小餘九百四十二満

廿一日トシテ大餘ノ方ヘ一ヲ加ルニソノ翌年無閏ノ年ハ又常ノ  
如ク三百四十八ト云定法ノ数ヲ加ルニイツモ九百四十二満ル  
ハ一日ニナラシテ大餘ヘ一ヲ加九百四十八減レ去テ不用アリ  
数ガカリヲ小餘イタト昏シ置シモシ又テウト九百四十キリ  
ナレハコレヲ破算シテ大餘ヘ一ヲ加テ小餘ナドト昏シ置シサテ又  
閏後ノ加数定法ノ一閏アル年ハ十二箇月ナレハ一箇月ノ  
日数二十九日ヲ十三ヨセアハセテ三百七十七トナル又一箇月ノ  
小餘四百九十九ヲ十三ヨセテ六千四百八十七トナレテ日法九  
百四十ヲ以テ除キテ六日ト八百四十七ヲ得  
ヲ六日ヲ三百七十七加テ三百八十三ト六十二満ルハコレヲ去テ止餘  
メノ算又ハ九百四十二ト  
取テアリ小餘八百四十七ト

二十三トナルヲ二十三ト八百四十七ト云モ乃加数ノ定法トスルニ  
右朔ノ大小餘ノ通例ニ本文ノ注トスヘカラス以後ノ一ヲ云タルニ  
陳明卿カ校定セル本ニハコレノ正義ノ注ヲ本文朔ノ無大餘無  
小餘ト云下ニアル正義曰無大小餘者云故無大小餘也  
ト云注ノ下ニツケテ收ム本文ニツカラス注ニ明卿疑テ意見  
ニテ移カタルニ效モ初メ疑アリツルカ今断シテ通例トシテ  
見レハコレノ処ニアリテモ可ナリ 按スルニコレノ注文誤脱アリ行字  
アリ今コレヲ補正スル篇スヘテ文字ヲ改正スル者先師ノ校  
定タル所ニ因テ更ニ鄙見ヲ加ヘテ昏ス併テ他本ヲ校讐  
テ取合ス印本ト文字異ナルハ印本ノ誤ト知レシ下コレニ效



魯術ヲ知ラズ者謬誤アルヲ知ラヌソノミテ領解セトスル故  
イヨクコノ篇分曉ナラス所謂南轅往燕ノ夕トシテ碩儒ト  
イハスニスフニナリテ高閣ニカキオクナリ

夜半朔旦冬至

索隱曰以建子為正故以夜半為朔其至與朔同  
日故云夜半朔旦冬至若建寅為正則以平旦為

朔

建子ヲ天統トシ建丑ヲ地統トシ建寅ヲ人統トスコレヲ三  
統ト云十二月建子月九ニコレヲ天正ト云天統ノ正月ト云  
ト前年十月ヲ以テ當年ノ曆首ト故夜半子時ニ日月

會朔ト冬至ノ時刻トツニイタルコレヲ夜半朔旦冬至ト云

モ建寅月ニテ今ノ正月ナレハ平旦寅ノ時ヲ以テ朔トスト云

コレハ一説ナリスヘテ歴法ハ古ヨリ今ニ至ルニテ前夜ノ夜半九ツ

子ノ時ヨリ入テ夜半九ツ時ニテラ一昼夜トスルニ

正義曰置大餘五筭加五日滿六十日則除之後

年更置五算如上法置小餘八筭每年加八筭滿

三十二分為一日歸大餘後年更置八筭如上法

大餘者日也小餘者日之奇分也

コレ冬至加數ノ定法ライタ通釈ナリ本文ニハツカラス本  
夜ノ如ク夜半朔旦冬至ニテアリタ次ハ大餘ニ五ノ數ヲオクテ

定法之前年冬至甲子ニテ無大餘無小餘ニハ五ヲ置ハシル  
ナリノ後年ニ加ル法トス本文已後イラズニ毎年クニ五ツ  
加テ冬至ノ支干ヲ得ニ改ニ加ヘクニテコノ大餘數六甲ニ  
滿ルハ除キ去テソノアリテトメテ紀法ノ圖ニアテ、支干ヲ  
求ルニテウト六十三滿テアリナセハ無大餘ト云乃甲子ノ  
日ナル後ノ次ノ年段ニ五數ト加テ冬至ノ大餘ノ數得テ  
六十三滿ル去リト上ニ云フ法ノ如クスルナリ小餘ハト云モ年ニ  
ハト云數ヲ小餘ニ加ヘテ次年ノ冬至ノ日ノ餘分ナリコノ  
小餘ハ三十三滿ルコレニ一日フリトシテ大餘ニヲ加増ス大餘  
ニタリアケル數ハ小餘中ヲ減差ル小餘ニツモ餘リナセハ

無小餘ト云次年ハ又ハヲ置クト上ニ云フ法ノ如シ大餘支干ヲ  
ツクル日ノ數ナリ小餘ハ一日ニ滿タス所ノ大餘アリノ分ナリ

正北

索隱曰謂部首十一月甲子朔旦時加子為冬至  
故云正北也然每歲行周天全度外餘有四分一  
以十二辰分之冬至常居四仲故子年在子丑年  
在卯寅年在午辰年在酉至後十九年章首在西  
故云正西其正南正東並准此

十九年ヲ一章トシ四章ヲ一部トス部ハ七十六年二百三十  
五箇月ナリ章ヲ首ニアタル年ト部ノ首ニアタル年ハイツモ

十月朔日ト冬至ノ同日ニ朔日ト冬至ト同日ナレ支干ハ  
甲子ニヤタラス一章ノ首歳ノ朔至ノ正北ナリ第二章ノ  
首ノ朔至ハ正西ナリ第三章ノ首ノ朔至ハ正南ナリ第四  
章メノ首ノ朔至ハ正東ナリコレニテ四章一部オウリテソリ  
又メクリカヘリテ第一章ノ首又正西ナリ四章ヲ一部トスハ  
是ナリ東西南北ハ卯酉干子ノ時刻ヲ多シ甲子ノ日朔  
旦冬至同日ニテアリ先後ハ二十部八十章一千五百二十年  
ノ年数々ノ子ハ再ヒ甲子朔旦冬至同日辰六カヘラナリ  
時加子トハ加時子ノ刻ト云フテソノ氣節ニ入ル時刻カ  
子ノ辰ト云フニ加トハ方ニ倍ニ云某ノ刻ニ入ルト云フニ

冬至子ノ刻ニ入ル子ノ方ハ北方ナルニ正北ト云サレ氏周  
歳周天ノ三百六十五ノ全日度ノ外ハ四分ノ一ト云餘分  
ルニ子丑寅ノ十二辰ニワカツニ餘分ダケハシタルニ年ノ  
ノ冬至ガ子ニカリニイラズ常居四仲トハ十二支ノ中ニテ中  
ニツ、隔テ、年ノ冬至ノ入ル時刻ニナルトハ子ノ年ノ冬  
至カ子ノ刻ニイルナハ翌丑ノ年ノ冬至ハ子丑寅卯ト中ニツ  
隔テ四ツメノ卯ノ時ニ入ル又ソノ翌寅ノ年ノ冬至ハ前年ノ  
卯ヨリ四ツメノ午ノ時ナリ又ソノ翌辰ノ年ハ午ヨリ四ツメノ酉ニ  
ヤ如此ソノ年前年ノ加時ヨリ四ツメノカ本年ノ冬至ノ全  
ナリテ十九年一章ノ年数終リテソノ次ノ第二章ノ首ノ

歳ニ加時酉ナリ酉ハ正西ノ辰ナク下始元元年ノ処ニ  
正西トアリコレ酉ノ初刻ニ冬至ニ入ルコト毎一章ノ首  
ノ歳ニカナラスコトテ注シオケリ第三章首歳ハ地節  
三年ノ処ニ正南トアリコレ六午ノ初刻ニ冬至ナリ又第四  
章ノ首歳ハ初元元年ノ処ニ正東トアリ己卯ノ初刻ニ至  
ナリ正南正東並准此ト云コレナリ廿七篇ノ末ニ祝犂大荒  
落四年トナル十月建寅ノ月ニテガ四章ノ終ノ歳ニテ四  
章アワセテ七十六年一部ノ年数コレニテ終ルコト歳建子十  
一月ヨリ又章ト一部トアラタマハ首ナリ

正義曰黄鐘管子時氣應称正北順行四時仲所

至為正月一日是歳之始盡一章十九年黄鐘管  
應在酉則称正西他皆放此

黄鐘十二律中ニテ十一月ノ律ナリ黄鐘ノ律管ニ葭灰  
實シテ密室ノ内ニ地トヒトシク埋メオケハ冬至ノ加時ニ  
ナリテソノ氣自然ニ應シテ葭灰ヲ吹出ス子ノ加時十  
ハ子ノ時ニ吹出スコノ漢昏ノ律歷志ニ見ヘタリコレヲ  
親シク試ミ名者モアリ冬至ヨリ冬至ニテ春夏秋冬ノ四  
時ヲ順行ノ歷ルコト四時ヲ順行スト云天正朔ハ一年ノ  
歴首ナルコト正月一日是歳之始ト云建寅ノ正月ヲ云ニア  
ラス仲所至ト十一月ノ中ノ冬至カ朔ト同日ニ至ルコト章首ハ

朔至氏ニ同日ニコノ歳太初元年一章十九歳ノ首歳ナルニ  
冬至一陽來復ノ氣子時ニ應ス一章十九年ヲククオ  
ワリテ次ノ章首ノ歳加時酉ニテ六酉時ニ律管ヘソノ  
氣應スレハ正西トスルリ正南正東ト云モ冬至ノ氣  
應スル加時コレニナラフ

十二

索隱曰歳有十二月有閏則云十三月  
一歳ノ月数ハ十二箇月ナルニ十三トシスモシ閏月アハ  
十三箇月ナルニソノ時ハ閏十三トシルニ置ヘステ一歳  
ト云ハ冬至ヨリ翌年ノ冬至ニテラ云歴法ノ常ナリ

俗用ノ正月ヨリ十二月ニテラ一歳ト云フニアラス

無大餘 無小餘

索隱曰其歳甲子朔旦日月合於牽牛之初餘分  
皆盡故無大小餘

太初元年建寅正月ノ前年元封六年ノ十月朔甲子  
ノ日ニ日ト月ト共ニ牽牛ノ初度ニ宿躔ニテ交會  
スコノ年歷元ニテ甲子ノ日ナルニ六十甲子ニアリメ  
コリナクテウト甲子ノ日ニアタルニハ大餘ナシト云大餘  
ナシトイハイツトテモ甲子ノ日ナリ小餘ナシト云モ夜  
半子ノ加時ニテ合朔ナルニ一日時刻ノ初ニテハシタナシ

正義曰無大小餘者以無閏月之歲有三百五十四日三百四十八分除五甲三百日餘有五十四日三百四十八分緣未滿六十日故置為來年大小餘亦為太初元年日得甲子朔旦冬至前年無奇日分故無大小餘也

十二閏月ノナキ年ハ十二箇月ニテ一年ノ日數十月ノ朔ヲ歷首トシテ次ノ年ノ十月ノ朔ニテ三百五十四日トシ餘分九百四十上云一箇日フリノ小ワリニ滿タサル處三百四十八分アリ右三百五十四日ヲ六十甲子トシテ除レ五六三十九ルニ六十甲子ニテ五タヒラヒノクハ甲子ヨリ癸亥ニテ五紀三百日ノ支干

ハクバリキリテナシ其アリ六十甲子ニ滿タサル處五十四アリコレ年ノ十月ノ朔ヲ直ニ求ル所ノ加數ノ定法ニ五十四ヲ紀法圖ニ引クラフハ戊午ノ日ナリコレハ元封六年ノ十一月ヨリ云タルモノニテ來年太初元年建寅ノ正月以後ノ十月朔ノ大餘ノ數ニナルコトノ解説コトニアツカラタ注ナリ唯年ニ加ル定法ノ數ヲ云タルモノニ且緣未滿六十日云トイハ何トヤラ六十日ニ滿レハ今年ノ用ニタテ六十ニ滿タサル故ニ來年ノ為ニ設ケ置マウニ昏ナシタルハ云トリアレキトスヘテ六十ニ滿レハ甲子ノ日ニ六十ニ滿タリハソレクノ數ニヨリソレクノ支干ヲツクニ滿ト未滿トニ

ヨリテ本年来年ノ差別アルニアラスイツレニモコノ処トヤツ  
カヲ無用ノ注ト知ルヘシ唯太初元年日得甲子云トイ  
ヘルコノ処ノ無大餘ト云 キタル注文ナリコノ注ノミコニハ  
用ニキレ奇ハアリノ時零ノ奇ニ太初元年ノ歷首ニアル  
所ノ元封六年ノ十月朔甲子ノ日ナルニハ元封六年ノ十月朔  
ニハノリモナクナレヒ日ノ小ワリノ小餘モナクテウト甲子ノ日ニ  
テ加時子ノ刻ナルニハ大餘モナク小餘モナレト云ナリ  
無大餘 無小餘  
索隱曰上大小餘朔之大小餘此謂冬至大小餘  
冬至亦與朔同日並無餘分至與朔法異故重列

之

コノ上ニ無大餘無小餘ト云モノハ元封六年ノ冬十月朔日  
ト分トノ一ニ又コニ重テ云マウナレト云ハ右元封六年  
十月ノ中氣冬至ノ大餘小餘ナレト云一ノ冬至モコノ  
年ハ歷元ナルニハ朔ノ日ト同シク甲子ノ日ニテマハリ朔日  
前夜半子ノ刻ニ加時ニテ上ノ朔ノ所ニ云ル通ニテウト甲  
子ニアタリ六甲ノアリモナク時刻モ餘分ナキニ大餘ナク  
小餘ナレト云コノ月朔ヲ推ス法ト二十四氣ヲ求ル法ト加數  
ノ定法モ異ナリヨリテ如此クケテ重子テ無大餘無小餘  
ト云タルモノナリ

焉逢攝提格太初元年

索隱曰漢志太初元年歲在丙子批之則甲寅歲  
爾雅親天云歲陽者甲乙丙丁戊己庚辛壬癸十  
干是也歲陰者子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥十  
二支是也歲陽在甲云焉逢謂歲干也歲陰在寅  
云攝提格謂歲支也

正義曰焉音於乾反後同

上三已三焉逢攝提格云云ト云人コニ焉逢攝提格太初  
元年ト云ハ重子テ云ヤウナレ上ニ云所ハ今年太初元年  
ノ歷首ニル所ノ去年元封六年ノ十月ノ朔支干冬至ト

ヲ云ル之コニ云フハ今年太初元年正月建寅以後十月  
ノ朔ト冬至トノ大餘ナリコト乃三年ノ歷首ニルニサテ又  
漢曆ノ律歷志ニ元年ハ丙子ト云フ篇言ハ元年ハ甲  
寅ノ歲ト云太初元年ハ實ハ丁丑ノ歲ニ辨ハ已ニ上ニ見ユ

十二

上ニ云ル如クコノ年ハ閏月ナク一年ノ日數十二月十九日云

大餘五十四

索隱曰歲十二月六大六小合三百五十四日以  
六除之五六三十除三百日餘五十四日故下云  
大餘者日也



一歳ノ月數十二箇月ニテソノ中大月六ッ小月六ッコノ  
日數ヲアワセテ三百五十四日アリ去年元封六年ノ十月  
一日甲子ヨリ今年太初元年ノ十月朔日ノ支干ハ  
何ソト云フニ右ノ周歲三百五十四日ヲ六十甲子ニテ拂ヒ  
除ケハ甲子ヨリ癸亥ニテ六十ト五名除ク五六三十  
ナルニ三百日ハ六甲ニテテウトニ拂ヒキリタレハソノ残り六  
十甲子ニ滿サル日數五十四日ナリコノ五十四ヲ紀法圖ニ  
引アハスハ戊午ノ日ニ乃コノ年ノ十月朔日ハ戊午ナリ  
コノ篇ノ末ニ大餘ハ日ニト云フハ支干ヲクハリアツル日ノ  
數ト云フナリ

正義曰月朔旦甲子日法也

十月朔ニ六甲ノ中ニツイツレノ支干ト云フ日ニツケケル  
法ナリ

小餘三百四十八

索隱曰太初曆法一月之日二十九日九百四十  
分日之四百九十九每兩月合成五十九日小餘  
五十八今十二月合餘六箇五十八得此三百四  
十八數故下云小餘者月也

曆法三箇月ノ日ト分トハ二十九日トソノハシタ一日ノ  
小ワリノ日法九百四十二滿タス所ノ四百九十九アリ

二十九日ヲ二箇月分ヨセアハセテ五十八トナル又ソノ公メ  
四百九十九ヲ二箇月ヨセアハセテ九百九十八トナルコノ  
内九百四十八日ニミツル分ナルニハ一日ニク、リアケ直  
ジテ上ノ大餘ノ五十八ニラクワテ五十九トナル右ノク、  
リアケ直シタルノコリ又五十八ト云モノア、ル一年八十二箇  
月ナルニハ二箇月ツヨセアハセタル小餘五十八ヲ六ツヨセ  
テコ、ニ云三百四十八トイフ數ヲ得ルナリコノ三百四十八  
ヲ小餘ノ加數ノ定法トシ年々ニ加フルナリ故ニ下ノ篇末  
ニ小餘八月也ト云二十九日ノウワハノ餘分ニテ一箇月  
ヲナスニハ二月也ト云フニコノ亦下ニ見ヘタリ合餘ハ

合小餘ニ作ルニ小ノ字脱セルナリ

正義曰未滿日之分數也其分每滿九百四十則  
成一日即歸上成五十五日矣大餘五十四者每  
歲除小月六日則成三百五十四日除五甲三百  
日猶餘五十四日為未滿六十日故稱大餘五十  
四也小餘三百四十八者其大餘五十四之外更  
餘分三百四十八故稱小餘三百四十八也此大  
小餘是月朔甲子日法以出閏月之數一歲則有  
三百五十四日三百四十八分每六十日除之為  
未滿六十日故有大小餘也此是太初元年奇日

奇分也

效按以出 拙下  
正義当作未出

小餘ト云ハ一日ヲ小ワリニシタル日法九百四十三滿サレ所ノ  
餘分ノ數ナリコノ數イツニテモ九百四十三滿ハ一箇日アリノ  
數ナルユヘトシテソノ上ノ大餘ニヨセ加ヘテ大餘ノ數ニ入ルニ  
クニ五十四ニツ歸シ加ヘテ五十五ニナルト云ハコトハ假令ニ云タルト  
ニテ必シモコノ処ニアツカリタルトニアラス且五十四ト云數ニ加フルニ  
カキリタルトニモアラス唯小餘ノ數ヲスリ上ケテ大餘ニ加フル  
トテ云タルニテニサテ大餘五十四ト云ハ周歲ノ自數十二箇月  
ニテ三百六十日ナレソノ中ニ六月ハ大ニテ二十日ニテ尽キ  
六ヶ月ハ小ニテ二十日ニテ尽ルユハ三百六十日ノウチ六箇ノ

小尽ノ一日ツ不足アリノ六ヲ減スルハ正餘三百五十四ナリ  
コレ一歲十一箇ノ自數ナリタトハ前年ノ十月朔甲子日  
ニテナリテ本年ノ十月朔ニテナルユヘコレヲ六十甲子トト五名六甲  
ニテクリアハセテ除クハ五六三ニテ五甲三百日ヲウツト六甲ニ  
クバリキリテ猶ソノ餘リ五十四アリコノ五十四ハ六甲ニテノ拂ヒ  
アリタルユニ大餘五十四ト云五十四ハ甲子ヨリカシテ丁巳  
日ナリ算外ヲ用ユト云丁巳ヨリツ外ノ戊午ヲアタリノ  
支干トスルニ紀法圖ニ直ニ五十四トシルニ置所乃チ戊午  
ナリソノワケ已ニ上ニ詳ニス小餘三百四十八ト云ハ右大餘

ノ教ハ支千ヲクリアテル教ニテ一日ノホフリハシタ三百四十八アリ  
コレ一日フリノ九百四十二満キラ又教ノ餘分ハタナリサテマニ  
大餘小餘ト云ハフレハ十一月ノ朔ニ支千ノクリ名ツクル教目  
ト餘分トシ周歲ノ全數ハ三百六十五日ナリ十三箇月六日  
六小ノ日數ハ三百五十四アリコレヲ指ヒキクリアセテ一年ニ十  
日トツノ餘分アリテ三年ニ閏月ヲマ歲イタ閏月ヲ置  
タケノ日數ノ外ヘ出テ又ナリサテ右ニ云如ク一歲ハ三百五  
十四日トツノ餘分三百四十八アリトカク大餘ト云ハ六甲ニ  
満ル分ハイタ度モ拂ニ除キ去テ六甲ニ満タヌ餘ル教ヲト  
メテ大餘イタク支千ヲツクルナリ六甲ニ満キハ大餘也云ニ

テ無大餘ト云ハ千甲子ノ日ニ六甲ニ満タズ餘アリテ並ニ  
一日フリノホフリモアル故ニ大餘小餘ト云フアリコノ所ハ太  
初元年ノ十一月ノ朔ノ支千 スハ千翌二年ノ  
歴首ニテ天正朔 六甲ニ満タヌ餘リ  
ノ數ト並ニ三日ニ満タヌ所ノ分數ヲ各レ置ナリ

### 大餘五

索隱曰周天三百六十五度四分度之一日行一  
度去歲十一月朔在牽牛初為冬至今歲十一月  
十二日又至午初為一周以六甲除之六六三十  
六除三百六十餘五故云大餘五也

天ノ總メケリ三百六十五度トツノハシタ四分度ノナリ日輪ハ

一昼夜二周天ヲ行テ一度アリツ、宿ル所ノ星躔ス、ム去年  
元封六年十月朔日月交會ル星纏ハ牽牛ノ初度ニ  
コノ時スハ千冬至ノ日躔ナリ日輪一昼夜二周天ヲアユミ  
メクリテ日ニ二度ツ行コシクシテ今年ノ太初元年ノ冬  
至ハ十一月十日己巳ノ日ニ又去年冬至ニ宿リシ牽牛初  
度ニメクリカリ本ノ処ニカリ宿ルニコレ一歳ノ總一周ニテ  
元ノ宿ニカヘルナリ去年十月朔冬至ヨリ今年十月十日  
ニテ三百六十五日ナリ当年冬至日支干ヲ求ルニハコノ三  
百六十五ヲ去年ノ甲子朔ヨリ六十甲子クトハラヒ除テハ六  
六三十六ナルニハ六六甲ニ滿ル分ヲ拂ヒケレハ三百六十八

テウト六甲ニ滿ルナリサテソノ餘リ六十甲子ニ滿タサル処五  
日アリコレヲ紀法圖ニ引アズレハ己巳ノ日ニアタルニスハ千  
今年太初元年ノ冬至ハ<sup>スナガチ二年毎</sup>首<sup>ニル天正朔</sup>十一月ノ朔戊午ノ日  
ヨリクリアスレハ己巳ノ日ハ十一月十日ヲ知六十甲子拂  
ノリノ五ツアル故ニ大餘五ト云フ也

正義曰冬至甲子日法也

クノ大餘ハ太初元年十月ノ中冬至ノ日支干ヲツル數ニ

小餘八

索隱曰即四分之一小餘滿三十二從大餘一四  
八三十二故云小餘八明年又加八得十六故下

云小餘十六次明年又加八得二十四故下云小  
餘二十四又明年加八得三十二為滿故下云無  
小餘並可依太初歷法行之也

冬至小餘八三十三以テ大餘一日ノ小ワリトスハトイハ三  
十二ノ四分一ナリイツテモハラ段々年々加フル數定法トス  
三十二ニ滿レハクリアケテ一日トシ上ノ大餘ニテ加ナリ從  
大餘ト大餘ニ加フル之前年冬至小餘ナクテ空ナユニ  
スノ歲ハラ置テ本年ノ小餘トス故ニ小餘ハト云ニコノ次  
ノ明年ニ又ハラ加アラセテ十六數ヲ得ルニ二年ノ小餘  
十六ト云又ク次ノ明年ニ又ハラ加テ二十四ト云ニ下ノ

三年ノ小餘二十四ト云又ク次ノ明年ニハラ加アラセテ三十  
ニトナル三十二ハテウツ小餘ノ數ニ滿ルユヘクリアケテトシテ  
大餘ニ加ルニ小餘ニハツモナキ又下ノ四年ニ無小餘ト云  
ソノ次ノ年ハ又更ニハラ置テ小餘ト以後年々並ニテ歷  
法ヨリテ取サハクヘキナリ

正義曰未滿日之分数也其分每滿三十二則成  
一日即歸上成六日矣大餘五者每歲三百六十  
五日除六甲三百六十日猶餘五日故稱大餘五  
也小餘八者每歲三百六十五日四分日之一則  
一日三十二分是一歲三百六十五日故稱小餘

□八也此大小餘是冬至甲子日法未出閏月之  
數每六十日除之為未滿六十日故有大小餘也  
此是大初元年奇日奇分也

小餘ハト云ハイタ大餘一日ノ小ワリ三十三滿タサル餘分  
ノハシタナリコノ小餘ノ餘分ノ數イツテモ三十三滿ハ一日  
分ナルニヘソノミ大餘一ニ取ナラスタトヘテイハ上九日ト云  
大餘ニツ加ヘテ六日トナルマウナモノニサテ大餘五ト云數ハ一  
年ノ日數ハ三百六十五日アリ 一歲ハ周天ト同シク三百六十五日ハ月  
數ノ日分ニテイハ三百五十四ナリ  
コノ數ヲ六十甲子ニテ六十甲子ト拂イケハ六三十九ナリ故  
六名六甲ニテノケケハ三百六十日除キテソノ餘六甲ニ滿タサル

ハシタ猶五日アリコノアリヲ甲子ヨリカソテ五ツメノ算外  
六ツメラアテ見レ己巳ノ日ナリ六甲ニクナリハスル餘九  
ユニ大餘五ト云フ又小餘ハト云ハ毎歲三百六十五日トソ  
ハシタ四分日ノ一ニ冬至自ハ一日ヲ三十三ニ充テ三十三  
四分ハハナリハト云モ四分日ノ一ト云モ同シヨロニ序例ニ詳  
ニスレカハ一歲ハ三百六十五日トソノハシタハアルニ大餘下ノ餘  
分ナルユハ小餘ハト云上ノ大小餘ハ十月朔ノ大小餘ニコノ  
大小餘ハ冬至ノ日ニ支ナラケリツク法ニ未出閏月之  
數コノ文未詳疑ラクハ脱誤アラシ按スルニコノ処ニアリケル  
フニモアラス無用ノ贅言ナリ衍文トシテ刪去ル可ナリ

サテ大餘ハ六十甲子ニ滿ルハ除去テソノ餘六十甲子ニ滿ル  
ニニ大小餘アルニコニ云所ハ太初元年ノ冬至マテノ支干  
六十甲子ニ拂エリタル日ト分トナリ

右索隱正義ノ注ニヨリテ鄙見ヲ加テ解スワノ解ニ重複  
スルト多キハ二家ノ注意ヲ述ル故ナリ以下ハ注ヲ省キテ  
本文ハカリヲ存スソノ中ニ注ノ解スヘキ者アルハ二據之尚  
四年ニテ加減ノシカタヲ説ホス

### 二年 閏十三

コノ歳ノ支干實ハ戊寅ナリ以下毎年支干ヲ注スル者  
コレニナラフ閏十三ハ閏月ノアル年ヲ示スニ二年ニ閏十三

トハアレ氏三年ニ閏アリシカルニ是歳ニ閏十三ト昏ハイカナル  
ヲナレハスヘテ歴法ハ天正建子ノ月ヲ元トシテ建子月ヨリ  
建子ノ月ニテラ一年ト定ケユヘコノ外ノ大小餘ノ數ハ三年ノ  
十月ニテニカル數ニソノ中ニ閏アルニシテノ歳ニ閏十三ト昏  
置シ天正以後ニ閏ナルニハ天正ノ數アル所ニ昏スナリ下  
コレニ效フコノ下ニ閏八年數ノ下ニ昏ス

### 大餘四十八 壬 小餘六百九十六

太初元年天正朔ノ大餘五十四ナニハ加數ノ五十四ヲ加テ  
百〇ハトナル六十甲子ニ滿ルハ除キテ餘リ四十八ヲトメテ  
コノ歳天正朔ノ大餘トス又前年ノ小餘三百四十八ニ定法



三百四十八ヲ加テ六百九十六ヲ得

大餘十 卯 小餘十六

元年十月ノ中冬至ノ大餘五十九ニ定法五ヲ加テ十

九コレモ年々加テ六甲ニ滿ルニ除去リソノアリラトメテ

大餘トス又前年小餘八ニ定法ノ八ヲ加テ十六ヲ得

三年 巳卯閏 十二

大餘十二 卯 小餘六百〇三

去年ノ大餘四十八ニ三ノ定法ヲ加ヘテ七十九トシ去年ノ

小餘六百九十六ニ定法八百四十七ヲ加テ千五百四十三トシ

日法ノ九百四十四ヲ引取テ一トシテ大餘七十一ニ加テ七十二トシ

止餘小餘六百〇三ナリ大餘六十三ニ滿ルニ去テ止餘十二ト

六百〇三コレ建子月朔ノ大小餘ナリ閏後ノ加數定法

ノ一ハ己ニ上ニ詳ナリ

大餘十五 卯 小餘二十四

去年ノ大餘十三ニ定法ノ五ヲ加ヘ小餘十六ニ定法ノ八ヲ加テ

本文ノ數ヲ得コレ建子月ノ中冬至ノ大小餘ナリ

四年 庚 十二

大餘七 辛 小餘十一

去年ノ大餘十二ニ定法ノ五十四ヲ加ヘテ六十六トシ去年ノ小

餘六百〇三ニ定法ノ三百四十八ヲ加テ九百五十一トシ本年ノ中

日法ノ九百四十ヲ引取テ大餘ノ下レ大餘(加テ六十七)止餘  
十二ヲ小餘トス大餘六十三滿ル去テ止餘七トル正朔

大餘二十一配 無小餘

去年ノ大餘十五定法ノ五ヲ加テ二十トル小餘二十四定法ノ  
八ヲ加テ三十二トル小餘三十三滿ル去テ上テ大餘ノ下レ  
二十ニ加テ大餘二十一ヲ得小餘一ツモナシ空ニ無小餘トス

天漢元年 歲ノ冬至ナリ

天漢元年 閏十三

大餘一配 小餘三百五十九

大餘二十六配 小餘八百八十四

二年 在三月 閏 十二

大餘二十五配 小餘二百六十

大餘三十一配 小餘十六

三年 未 十二

大餘十九配 小餘六百一十四

大餘三十六配 小餘二十四

四年 甲申 閏 在 閏十三

閏八建子ノ月以後九之四年ノ十二月ナレ氏公マリノ歲ニ閏  
十三ト唇スノ歲ニアリテモ十月以前ナレ三年ノ所ニ閏十  
三ト唇歷法ハ天正ノ月ヲ首トスル故ナリ 下准之

大餘十四寅 小餘二十二

大餘四十二卯 無小餘

太始元年配 十二

大餘三十七肆 小餘八百六十九

大餘四十七解 小餘八十四

二年戌 十三

大餘三十二甲 小餘二百七十七

三十二卯 刊本三十三辰 作六誤ナリ

大餘五十二辰 小餘一十六

三年丁亥 十二

大餘五十六庚 小餘一百八十四

大餘五十七酉 小餘二十四

四年戌 十二

大餘五十甲 小餘五百三十三

大餘三卯 無小餘

無小餘ノ下ニ正義注ル誤今移テ篇末ニ收ム

征和元年巳 十三

大餘四十四戊 小餘八百八十

大餘八壬 小餘八

二年庚寅 十二

大餘八申壬 小餘七百八十七  
 大餘十三丑丁 小餘十六  
 三年卯 十三  
 大餘三卯 小餘一百九十五  
 大餘十八壬 小餘二十四  
 四年辰 閏十三  
 大餘五十七丑 小餘五百四十三  
 大餘二十四戌 無小餘  
 後元元年癸巳 閏 十二  
 大餘二十一酉 小餘四百五十五

大餘二十九癸巳 小餘八十六  
 二年甲 閏十三  
 大餘十五卯 小餘七百九十八  
 大餘三十四戌 小餘十六  
 始元元年乙未 閏 正西 十二  
在十月

コノ歳十月ニテ三ヲ大初元年歴元ヨリ十九歳一章終  
 以上十九歳七閏ニテ建子ノ月朔ト冬至ト同日ナリコノ  
 月ヨリ第二章ノ首ナリ酉ノ初刻冬至ノ加時九二ハ正西

ト云ナリコノ一巳ニ上ニ見ヘタリ

大餘三十九卯 小餘七百〇五

大餘三十九癸卯 小餘二十四

二年丙寅 十二

大餘三十四戊戌 小餘一百一十三

大餘四十五酉乙 無小餘

三年酉丁 閏十三

大餘二十八壬辰 小餘四百六十一

大餘五十寅甲 小餘八

四年戌戊 閏十二

大餘五十二丙辰 小餘三百六十八

大餘五十五巳未 小餘十六

五年起 十二

大餘四十六庚戌 小餘七百一十六

無大餘子甲 小餘二十四

六年庚子 閏十三

大餘四十一乙巳 小餘一百二十四

大餘六庚午 無小餘

元鳳元年辛丑 閏三月

大餘五巳 小餘三十一

大餘十一乙亥 小餘八

二年寅 十二

大餘五十九癸 小餘三百七十九

大餘十六庚辰 小餘十六

三年癸卯 閏在 閏十三

大餘五十三丁 小餘七百二十七

大餘二十一配 小餘二十四

四年甲辰 十二 小餘六百三十四

大餘十七辛 小餘六百三十四

大餘二十七卯 無小餘

五年乙酉 十三 小餘六百六十六

大餘十二丙 小餘四十二

大餘三十二丙申 小餘八百一十五

六年丙午 閏 十二 小餘七百四十四

大餘三十五己 小餘八百八十九

大餘三十七辛 小餘十

元平元年丁未 十二 小餘六百六十三

大餘三十甲 小餘二百九十七

大餘四十二丙 小餘二十四

本始元年戊 閏十三

大餘二十四戊 小餘六百四十五

大餘四十八壬 無小餘

二年在巳酉閏十二月餘七百七十九  
 大餘四十八壬子 小餘五百五十二  
 大餘五十三巳丁閏 小餘八  
 三年戊庚十二月餘七百四十七  
 大餘四十二午 小餘九百  
 大餘五十八壬戌 小餘十六  
 四年庚辛閏十三餘七百三十四  
 大餘三十七辛 小餘三百〇八  
 大餘三卯餘七百 小餘二十四  
 地節元年壬子閏在正月 小十二

大餘一丑乙 小餘二百一十五  
 大餘九癸 無小餘三百三十三  
 二年癸丑閏十三餘七百  
 大餘五十五巳 小餘五百六十三  
 大餘十四戊寅 小餘八百二十六  
 三年甲寅閏在九月 正南 十二  
 始元元年建子月ヨリ今年十月ニテ十九年一章  
 才兄今年建子月ヨリ第三章ノ首ニテ朔至氏ニ同  
 四年日之年ノ初刻冬至ノ加時ナリ故ニ正南ト云  
 大餘十九癸未 小餘四百七十

大餘十九癸 小餘十六

四年卯 十二

大餘十三丁 小餘八百一十八

大餘二十四戌 小餘二十四

元康元年辰 閏十三

大餘八壬 小餘二百二十六

大餘三十甲 無小餘

二年丁 閏十二

大餘三十二丙 小餘一百三十三

大餘三十五己 小餘八百一十五

三年戊 十二

大餘二十六庚 小餘四百八十一

大餘四十甲 小餘十六

四年己 閏十三

大餘二十甲 小餘八百二十九

大餘四十五配 小餘二十四

神雀元年戊申 閏四月 小餘十二

大餘四十四戌 小餘七百三十六

大餘五十一乙 無小餘

二年辛 十二 小餘二百四十四



大餘三十九癸卯 小餘二百四十四  
 大餘五十六戊寅 小餘八  
 三年壬戌 閏在 閏十三百三十六  
 大餘三十三酉 小餘四百九十二  
 大餘一丑 小餘十六四  
 四年癸亥 十二 小餘八百二十五  
 大餘五十七酉 小餘三百九十九  
 大餘六辰 小餘二十四  
 五鳳元年甲子 閏十二四百六十二  
 大餘五十一卯 小餘七百

大餘十二 無小餘  
 二年乙丑 閏 十二  
 大餘十五巳 小餘六百五十四  
 大餘十七辛 小餘八十三  
 三年丙寅 十二  
 大餘十甲 小餘六十二  
 大餘二十三丁 小餘十六  
 四年丁未 閏十三 小餘  
 大餘四戌 小餘四百一十六  
 大餘二十七辛 小餘二十四

甘露元年在戊辰閏五月 小餘二百四十四  
 大餘二十八辰壬 小餘三百一十七  
 大餘三十三酉丁 無小餘  
 二年己酉 十二  
 大餘三十八寅壬 小餘八  
 三年庚申 閏十三  
 大餘十七己辛 小餘七十三  
 大餘四十三未丁 小餘十六  
 四年辛未閏三月 十二  
 大餘四十辰甲 小餘九百二十

大餘四十八壬子 小餘二十四  
 黃龍元年壬申 閏十三  
 大餘三十五己巳 小餘三百二十八  
 大餘五十四戊午 無餘  
 初元元年癸酉閏十月 小正東木十二  
 地節三年建子月ヨリ是歲十閏マテ十九年一章才元  
 今年建子月朔至同日ニテ第四章ノ首ナリ加時卯ノ  
 初刻ナル六正東ト云  
 大餘五十九癸亥 小餘二百三十五  
 大餘五十九亥癸 小餘八百四十九

二年<sup>戌甲</sup>十二

大餘五十三<sup>巳丁</sup>

大餘四<sup>辰戌</sup>

三年<sup>亥乙</sup>十三

大餘四十七<sup>亥辛</sup>

大餘九<sup>醜癸</sup>

四年<sup>丙子</sup>在六月<sup>閏</sup>十二

大餘十一<sup>亥乙</sup>

大餘十五<sup>卯巳</sup>

五年<sup>丑丁</sup>十二

小餘八

小餘五百八十三

小餘十六

小餘九百三十一

小餘二十四

小餘八

小餘七

小餘八百三十八

無小餘

小餘九百四十四

大餘六<sup>午庚</sup>

大餘二十<sup>卯甲</sup>

永光元年<sup>寅戌</sup>

無大餘<sup>卯甲</sup>

大餘二十五<sup>巳丑</sup>

二年<sup>己卯</sup>在三月<sup>閏</sup>十二

大餘二十四<sup>子戌</sup>

大餘三十<sup>午甲</sup>

三年<sup>辰庚</sup>十二

大餘十八<sup>子戌</sup>

小餘二百四十六

小餘八

小餘五百九十四

小餘五百九十四

小餘十六六十四

十二

小餘五百〇一

小餘二十四

小餘八

小餘六百四十九

大餘三十六 庚 無小餘百四十六  
 四年 辛 閏十三 小餘五百八十三  
 大餘十三 丑 小餘二百五十七  
 大餘四十一 乙 小餘八十一  
 五年 壬午 閏 十二 小餘九百三十四  
 大餘三十七 辛 小餘一百六十四  
 大餘四十六 庚 小餘十六  
 建昭元年 癸 閏十三 小餘五百一十二  
 大餘三十一 未 小餘五百一十二

大餘五十一 卯 小餘二十四  
 二年 甲申 閏 十二 小餘四百一十九  
 大餘五十五 未 小餘四百一十九  
 大餘五十七 酉 無小餘  
 三年 乙 十二 閏十三 小餘七百六十七  
 大餘四十九 丑 小餘七百六十七  
 大餘二 丑 小餘八  
 四年 丙 閏十一 小餘一百七十五  
 大餘四十四 戌 小餘一百七十五  
 大餘七 辛 小餘十六

五年丁亥 十二月在四月 十二餘十六  
 大餘八申 小餘二十四十五  
 竟寧元年戊子 十二月  
 大餘二寅 小餘四百三十  
 大餘十八壬 無小餘百六十五  
 建始元年丑 十二月  
 大餘五十六庚 小餘七百七十八  
 大餘二十三亥 小餘八百一十五  
 二年庚寅 十二月在正月  
 大餘二十甲 小餘六百八十五

大餘二十八壬辰 小餘十六十四  
 三年卯 十二月在十一月  
 大餘十五卯 小餘九十三  
 大餘三十三酉 小餘二十四  
 四年壬辰 十二月在十月

初元元年建子ノ月ヨリ是歲ノ閏十月ニテ十九年一章  
 オル大初元年建寅ノ前曆元ニテ所ノ建子ノ月ヨリ  
 四章七十六年ヨリテ一部終ルコノ四年ノ建子ノ月ヨリ又  
 アラタリテ第一章一部ノ首ニテ夜半朔旦冬至同日辰  
 ナリ大餘同シク三十九ニテ癸卯ナリ共ニ小餘ナレ陳仁錫

五年曰祝犁大荒落正北大餘三十九無小餘今本祝  
 祝犁大荒落之年不昏大小餘缺文也ト今按ニ  
 之說非ナリ 缺文アルニアラス明卿カ脱説ナリイカニト  
 ナハ大初元年ヨリ一部七十六年ヲ歲閏十月キリテ  
 終ルヘ三年ヲハ表シタルモノモシ大小餘ヲ昏セハ又一部  
 一章ノ首ヲ記スニナルニハ大小餘ヲハワガト省キテハサルニ  
 右ノ如ク大小餘ヲ昏サレウケナルニ四年ト云下ニ正北凡  
 十二凡レハ通例ニセサルニ明卿カ説謬ニ後スカラス  
 右歷書大餘者日也小餘者月也端旃蒙者年名也  
 支丑名赤奮若寅名攝提格干丙名游兆正北加冬至

時正西時加酉 正南時加午 正東時加卯

正義曰准前解小餘是日之餘分也自右曆書已  
 下小餘又非是年名復不周備恐褚先生及後人  
 所加

小餘ト云ハ日ノ餘分ハシタノ名ナリ年ノ名亦雅ニ出テ  
 具ナリコノ処ワツカニ四ツラアケテ解スルハ疎ナルトナリ自右  
 曆書已下小餘又非是コノ十一字脱誤アラコノ処  
 分リ褚少孫ヤ後人ノ増加トオモルハ非ナリコノ甲子  
 篇ハ太史公カ本書ニアラス已ニコノヲ上ニ辨ス按ニ  
 本文大餘ハ日ニトハ支干ヲツケ日ノ數目ニ小餘ハ月

也トハ一箇月ハ二十九日トソノハレタ九百四十分日ノ四  
百九十九アリコノハレタラ日ニソヘテ一箇月ヲ成スモノナル  
ユニ月也ト云尔雅ノ釈天ノ疏ニ尚書考ヨ灵耀ヲ引  
テ云九百四十分為一日二十九日與四百九十九為月  
トアリコレニコレニテハ朔ノ小餘ノイハカリニテ二十四氣節  
ノ小餘ノイニアツカラスサレ氏氣節ノ小餘モ日ニソヘテ  
年ヲ成シ月ヲナスモノユヘ月也ト云テモ妨方ラシ陳仁錫  
下カ説ニ旃ノ字ヲ衍文トス是ヤリ年名也ト云年ノ字モ  
干乙ノ字ヲ傳寫シアマリテ一字ニナリタルモノト云フレ  
亦ソノ説ニシタカフヘシ端蒙赤奮若等ノ名目ハ已ニ上ノ

索隱正義ノ兩注ニ見ユ正北以下モ亦上ニ注シオケリ  
コノ処正義ノ注ハ上ノ太始四年ノ所ヨリ移入ル  
右甲子篇ノ歷術ハ次年ノ天正朔ト冬至トヲ推ノミニテ每  
月ノ朔ト二十四氣ヲ推ス術ナレ其法已ニ序例ニ見ユ今又太  
初元年ノ毎月朔ト二十四氣トヲ推メ示ス元封六年十一月ノ  
朔大餘小餘空ニテ甲子ノ日ナリコレヲ求ル所ノ本年ノ歷首トス  
右空ナルユヘ大餘二十九小餘四百九十九ヲ置テ次ノ十二月朔ノ大  
小餘ナリ二十九ハ紀法圖ニ照シテ見ハ癸酉ノ日ニ  
以下大餘ノ數ヲ以  
テ支チテ得ル  
ト云又大餘二十九ヲ加テ五十八ナル小餘四百九十九ヲ加テ九百  
九十八トナルコノ中九百四十八日ノ數ニ滿ルユヘ破算シテ上ノ五

十八加へテ五十九ト九止餘小餘五十八ナリ大餘五十九ハ癸亥  
ノ日ナリコレ太初元年建寅正月朔ノ支干ニコノ月ハ小盡  
ナリ又上ノ正月ノ大餘五十九ニ二十九ヲ加へテ八十八ト九六十  
甲子ニ滿ル去テ止餘二十八ヲ二月朔ノ大餘トス二十八ハ壬  
辰ノ日ナリコレ二月朔日ノ支干ニ正月ノ小餘五十八ニ四百  
九十九ヲ加へテ五百五十七ヲ得テ二月ノ小餘トスコノ月ハ大ニ  
又二十八ニ二十九ヲ加テ五十七ト九五百五十七ニ四百九十九ヲ  
加テ千五十六ト九九百四十二滿ルコレヲ一トシテ上ノ五十七ヲ  
加テ五十八ト九止餘百十六ニコレ三月朔ノ大小餘ニ五十八ハ壬  
戌ノ日ナリコノ月小ニ又五十八ニ二十九ヲ加テ八十七ト九六十二滿

ル去テノコリニ十七ヲ四月朔ノ大餘トス辛卯ノ日ニ前月ノ小  
餘百十六ニ四百九十九ヲ加テ六百十五ヲ得四月ノ小餘トスコノ  
月大ニ又二十七ニ二十九ヲ加テ五十六ト九小餘六百十五ニ四百九十  
九ヲ加テ千百十四ト九コノ中九百四十ヲクリ上テ一トシ五十六ニ  
加テ五十七ト九止餘小餘百七十四ヲ五月ノ大小餘トスコノ  
月辛酉朔ナリ小トス又五十七ニ二十九ヲ加テ八十六ト九六甲ニ  
滿ル去テ用ヒスノコリニ十六ヲ六月朔ノ大餘トス乃庚寅ノ  
日ナリ前月ノ小餘百七十四ニ四百九十九ヲ加テ六百七十三ヲ  
コノ月ノ小餘トス本月ハ大ニ又二十六ニ二十九ヲ加テ五十五ト九  
前ノ小餘六百七十三ニ四百九十九ヲ加テ千百七十二トナルコノ内九



百四十九ヲ引取テ一トナシテ上ノ五十五ニ加テ五十六トス止餘小餘  
二百三十二ヲ七月朔ノ大小餘トス庚申ノ日ナリコノ月小ナリ  
七月ノ大餘五十六ニ又二十九ヲ加テ八十五ト九十六ニ滿ルコレヲ  
去テ用ヒスノコリ二十五ヲ八月朔ノ大餘トス己丑ノ日前月ノ  
小餘二百三十二ニ四百九十九ヲ加テ七百三十一ト九ヲ本月ノ小餘  
トスコノ月大ニ又二十五ニ二十九ヲ加テ五十四トナル七百三十一ニ  
四百九十九ヲ加テ千二百三十ト九コノ中九百四十九ヲ引テ大餘五  
十四ニヲ加テ五十五トナル止餘小餘二百九十九ヲ九月朔ノ大小  
餘トス己未ノ日ナリコノ月小ニ又五十五ニ二十九ヲ加テ八十四  
ト九十六ニ滿ルハ除キテ餘リ二十四テ十月朔ノ大餘トス戊子

ノ日ナリ二百九十二四百九十九ヲ加テ七百八十九トナルヲ本月ノ小  
餘トスコノ月大ニ又二十四ニ二十九ヲ加テ五十三トナル小餘七百八  
十九ニ四百九十九ヲ加テ千二百八十八トナルヲコノ中九百四十九ヲ引  
一トシテ五十三ニヲ加テ五十四トナルヲ大餘トシ止餘三百四十八  
ヲ小餘トス十月朔ノ大小餘トス乃戊午ノ日ナリコノ月小ナリ  
スナハキ本篇ニ太初元年大餘五十四小餘三百四十八ト云ト符  
合ス又五十四ニ二十九ヲ加テ八十三ト九十六ニ滿ルハ除テ餘リ二十  
三ヲ十二月朔ノ大餘トス丁亥ノ日ナリ小餘モ三百四十八ニ四百  
九十九ヲ加テ八百四十七ヲ得テ本月ノ小餘トスコノ月大ナリ  
コニ至テ太初元年ノ一歳十二箇月ノ朔ノ大小餘支干ヲ求メ

終ル餘ハ推シテ知ルヘシモ亦元封六年十月ヨリ以前ノ朔ヲ  
求ルハ逆ニ推シ求ルニハ逆推ノ法ト云順ニ下ヘ求ルハ日分ヲ加ル  
ニハ逆ニ上ヘ推スニハソノ大小餘ヲ減シテ求ルナリタトハ元封六  
年十月ノ朔ノ大小餘ヲ求ルニ十月ノ朔ハ大小餘氏ニ空ニテ減  
スヘシ數ナキニユヘヨノ時ハ六十甲子ノ六十ヲ置ユノ中二十九ヲ減メ  
三十一アル小餘モナキニユヘ三十一ノウチヲツトキツクシテ小フリニ  
シテ九百四十トシテ別ニ右ヘ置テ中四百九十九ヲ減シテアリ  
四百四十一トナル三十ヲ大餘トシ小餘四百四十一ナリ三十八  
紀法圖ニテ甲午ノ日ナリ乃十月朔ハ甲午トス又九月ノ朔  
ヲ求ルニ三十ノ中ヲ二十九減シテツノナル小餘四百四十一ニ定

數ノ四百九十九ニ引タラヌニハツノリタル大餘ノ一ヲトキツクシ  
テ九百四十トシテ四百四十一トツニアワセテ千三百八十一ト九内  
ヲ四百九十九減スレハ止餘八百八十二トナルヲ小餘トス大  
餘ハ一ツモナク空ナルニハ無大餘トスナハチ甲子ノ朔ナリ又八  
月ノ朔ヲ推求ルニ大餘ナキニユヘ又六十ヲ置テ中三十九ヲ  
減シテ止餘三十一ヲ大餘トス九月ノ小餘八百八十二ノウチヲ四百  
九十九減シ去テノコリ三百八十三テ八月ノ小餘トスソノ餘ハ推  
シテ知ルヘシニハテ大餘減スルニ足ラサレハ六十ヲ置加ヘ小餘モ減  
スルニ足ラサレハ大餘ノウチ一ヲトキツクシテ九百四十トシテ右ニ置  
タル小餘ノ方ヘ加ヘ置テ次第ニ上ヘ逆ニ減シテソノノ數ヲ求テ

紀法圖ニ引アワセテ支干ヲツクルニステ順推逆推凡二月々ニ  
累加減ノ朔ヲ求ルニ閏月ノアルキ歳ヲ兼テヨリ知テソレ  
タケ一箇月分餘度ヲ求メ置ヘル大抵閏ハ三十三四箇月ヨトニ  
アルモナリ某ノ月ニ閏アルキトテアラカシメ知ル捷徑ノ術ハ  
前年ノ冬至ノ日數ヲ以テ定法二十九日ノ中ヲ減シテ止餘々  
トハ四日アルハ四月ニ閏アリト知ルニモレ前年ノ冬至十八  
日以後ナレ求ル年ニ閏ナレト知ルニ閏ノ置定ルハ已ニ序  
例ニ示スユヘヨニ畧スモレ當年ノ十月ノ朔ヨリ去年ノ十月  
ノ朔ヲ求メントナラハ當年ノ天正朔ノ大餘ノウチヲ五十四減  
シ小餘ノ三百四十八減シテ求ル所ノ十月朔ノ大小餘ヲ得

ルナリモレ當年ノ天正朔以前ニ閏アラハ大餘二十三小餘八百四  
十七ヲ減スヘイウモ大餘小餘凡ニ減スルニ足ラサレ上ノ法ノ  
如クスヘシコノ加減ノコトヲ熟解スル何年以前何年以後ニテモ  
ソレクノ求ムキ數ノ定法ヲ得テ知ラルナリ

月々ノ大小ヲ知ルニ本月ト次月ト朔年同シケル本月ヲ大トス  
朔ノ干異ナレ本月ヲ小トス次月朔ノ干異同ニヨリテ大小見ワ  
カルナリタトハ太初元年建寅ノ正月朔ハ癸亥ニ次ノ二月朔ハ  
壬辰ナリ癸ト壬ト異干九二二月ヲ大ト知ナリ餘ハコレニ  
ナラフサテ右ノ歷法ハ簡ナルニ大小大小ト順ニ入カワリテイウ  
モ六大六小ナリ後世ノ法ハ先右ノ如ク毎月ノ朔ヲ求置フレテ

經朔ト云日月ノ行ニ遲速進退アリテアルヒハ朔ノ日ヨリ日ハ  
後レ月ハ先ツテアリアルヒハ日先タナテ月後ルテアリアルヒハ  
日月氏ニ朔ヨリハ先ツテアリ後ルテアリテ經朔ノ日ニ日月  
交會セヌテアリコレヲ加減シテ日月ノ會スル日ヲ求メテ經  
朔ヲ進退シテ朔ヲ定ムコレヲ定朔ト云定朔ト經朔ト同日  
ナルテモアリアルヒハ經朔ヨリハ二日前後スルテモアリ定朔ヲ推求  
シテ日食ハイツモ朔日ニカキリテアリ日月交會ノ時ニ食スルモノ  
ナレバ古曆ハ經朔ノミテ定朔ヲ推スルユハ春秋ニ書スル所  
ノ日食ハ月ノ晦ニアルテモアリ二日ニアルテモアリ古曆ニ日食ヲ  
推ス法ナレ聖人微意ノ凡所ニテ後世ノ精密ナルカ必シモ

ヨキニモアラス古曆ノ簡疎ナルカ必シモアレキニモアラス其說コノ書ニ  
アツカラスコトエ畧ス按スルニ月食ヲ推ス法ハ漢ノ三統曆ニ見ヘ  
タリソノ法漢曆ノ律歷志ニアリ太初曆ハソノ法傳ヲサルユヘ  
有無考ヘ知ルナシ

二十四氣ヲ推求ルニハ元封六年十月ノ中冬至ハ朔ト同日ニテ大  
餘空ニテ甲子ノ日ナリコレ大初元年ノ歷元トスサテ定法ノ大餘十五  
ヲ左ニ置小餘セテ右ニ置テ十二月ノ小寒ノ節ノ大小餘トス十五ハ紀  
法ノ圖ニ照シテ己卯ノ日ナリ 下大餘數ヲ紀法ノ紀号ヲ  
見アセテ支キヲ得テ放之十一月ノ朔甲子ナ  
ルニ十一月十六日小寒ノ節ノ上ノ大餘十五ニ又十五ヲ加テ三十ナ  
ラ十二月ノ中大寒トス三十八甲午ノ日ナリ十二月ノ朔癸巳ナルニ朔

ヨリクリアハセテ二日大寒ナリ以下月朔ヨリクリ  
アスル者コレニナラフ小餘モ亦上ノ七ニ又セラ  
加テ十四トナルラ大寒ノ小餘トス又三十三ニ又セラ加テ四十五トナルラ初  
元年建寅正月ノ立春ノ節ノ大餘トス四十五己酉九月二十二月ノ  
朔癸巳ヨリクリアハセテ十二月十六日立春ナリ小餘モ亦上ノ十四ニセ  
ラ加テ二十トナルラ立春ノ小餘トス又四十五ニ又セラ加テ六十トナルラ正  
中雨水ノ大餘トス六十甲子ニ満ルハ除去テ空トナルラ無大餘トス  
又十八日甲子ノ日ニテ正月二日ナリ小餘モ上ノ二十三ニ又セラ加テ二十八  
トナルラ雨水ノ小餘トス又大餘十五ヲ置キ小餘二十八ニセラ加テ三十五  
トナルラコノチ三十二ハ二十四氣ノ日法ノ小ワリナルニ又セラ上テ大餘ハ  
一ヲ加テ十六トナルラ二月ノ節啓蟄ノ大餘トス十六庚辰ノ日ニテ

十二トナル小餘二十七ニセラ加テ三十四トナルラ内三十三ヲクリ上テ大  
餘ノ一トシテ大餘三十三ニセラ加テ三十三トナルラ六月ノ中大暑ノ大餘  
トス丁酉ノ日ニテ本月八日ナリ大餘ニ加ヘタル引ノコリニラ大暑ノ  
小餘トス又三十三ニ又セラ加テ四十八トナルラ七月ノ節立秋ノ大  
餘トス壬子ノ日ニテ六月二十三日ナリ上ノ小餘ニセラ加テ  
九トナルラ立秋ノ小餘トス又四十八ニ又セラ加テ六十三トナル  
六十三満ルハ除テアメリニラ七月ノ中處暑ノ大餘トス卯ノ  
日ニテ本月八日ナリ上ノ小餘九ニセラ加テ十六トナルラ処暑ノ  
小餘トス又三十三ニ又セラ加テ十八トナルラ八月ノ節白露ノ大餘トス  
壬午ノ日ニテ七月二十三日ナリ上ノ小餘十六ニセラ加テ三十三トナル

白露ノ小餘トス又十八ニ十九ヲ加テ二十三ト十九ヲ八月ノ中  
秋分ノ大餘トス丁酉ノ日ニテ本月九日ナリ上ノ小餘二十三ニ七  
ヲ加テ三十ト十九ヲ秋分ノ小餘トス又三十三ニ十九ヲ加テ四十  
ハトナル上ノ小餘三十三ニ七ヲ加テ三十七トナル内三十三ヲクリ  
アケテ一トシ大餘四十八ニ十九ヲ加テ四十九トナル九月ノ節寒露ノ  
大餘トス癸丑ノ日ニテ八月二十五日ナリ引ノコリカヲ寒露ノ  
小餘トス又四十九ニ十九ヲ加テ六十八ト十九ト満ル去テ止餘四  
ヲ九月ノ中霜降ノ大餘トス戊辰ノ日ニテ本月十日ナリ上ノ小餘  
五ニ七ヲ加テ十二ト十九ヲ霜降ノ小餘トス又四十九ニ十九ト  
ナルヲ十月ノ節立冬ノ大餘トス癸未ノ日ニテ九月二十五日ナリ上

小餘十二ニ七ヲ加テ十九ト十九ヲ立冬ノ小餘トス又大餘十九ニ十  
ヲ加テ三十四ト十九ヲ十月ノ中小雪ノ大餘トス戊戌ノ日ニテ本月  
ノ十一日ナリ上ノ小餘十九ニ七ヲ加テ二十六ト十九ヲ小雪ノ小餘  
トス又三十四ニ十九ヲ加テ四十九トナル上ノ小餘二十六ニ七ヲ加テ  
三十三ト十九ヲ内三十三ヲ引テ一トシ大餘四十九ニ十九ヲ加テ五  
十トナル十一月ノ節大雪ノ大餘トス甲寅ノ日ニテ十月二十七  
日ナリアリノ上ヲ大雪ノ小餘トス又五十九ニ十九ヲ加テ六十九ト  
ナルヲ六十甲子ニ満ル除キテアリノ五ヲ十一月ノ中冬至ノ大餘  
トス己巳ノ日ニテ十月十二日ナリ上ノ小餘一ニ七ヲ加テ八トナル  
冬至ノ小餘トスス十八本篇ニ太初ノ元年ノ冬至ノ大餘小餘ト

合ス又五ニ十五ヲ加テ二十トナルヲ十二月ノ節小寒ノ大餘トス  
甲申ノ日ニテ十月二十七日ナリトテ小餘ハニセヲ加テ十五ト  
ナラ小寒ノ小餘トス又ニセニ十五ヲ加テ三十トナルヲ十二月  
ノ中大寒ノ大餘トス己亥ノ日ニテ本月十三日ナリトテ小餘  
十五ニセヲ加テ二十ニテ得テ大寒ノ小餘トスコノ次ニ又定法ノ  
大小餘ノ數ヲ加レハ来年立春ノ節ヲ得ルナリ乃三月二十  
八日甲寅立春ナリコレニテ太初元年ノ二十四氣ヲ推シ求メ  
終ル餘ハ准シテ知ルレモ元封六年天正冬ニ至ヨリ前ノ節氣ヲ  
求ルハコレモ逆推ナルニ得ル數ヲ次第ニ減シテ求ルニタト元封  
六年天正中冬ニ至大小餘ナキニ大餘ニ六十ト置コノ内ニツク

シトキテ小餘三十二トシテ左ニ別ニ置大餘五十九ノウチ十五ヲ減シ  
テ餘リ四十四ヲ十二月ノ節大雪ノ大餘トス戊申ノ日ニ小餘三十  
ニノウチ七ヲ減シテ二十五ヲ求ル所ノ小餘トス如此段々ニ上  
逆ニ大小餘ノウチヲ定法ヲ以テ減シテ得ル數ヲ紀法圖ニ  
見アセテ支テツクナリモレ當年ノ冬ニ至ヨリ去年ノ冬ニ至ラ  
タ、千ニ求ルニ大餘ハ五ヲ減シ小餘ハ八ヲ減シテノ數ヲ求ル所  
ノ大小餘トスイツレモ大餘減スルニ足ラサレハ六十甲子ニ六ヲ置加フ小  
餘減スルニ足ラサレハ大餘一ヲトキテ三十二トシテ小餘へ置加テ定數ヲ  
減スルニ二十四氣推ハ有圍ニカマハサルナリ  
章首ヨリ二年ノ次ノ章首ノ朔ト至ト日分ヲタ、千ニ求テナス

章首ノ朔ノ大小餘ヲ置大餘三十九小餘七百〇五ヲ加テ次ノ  
 章首ノ朔ノ日分ナリ冬至至ハ大餘三十九小餘二十四ヲ加テ  
 加テ次ノ章首ノ冬至ノ日分ナリ逆推スルモノハ定数ヲ大小  
 餘ノ内ニテ減シタルノヨリ乃チ求ル所ノ大小餘ナリ部首ヲ求  
 ルモコレニ准シテ定法ヲ得テ推スヘシ今コレニ畧ス

二十四氣ノ小餘ニテ加時ヲ求ル圖

子	三十一	二	丑	三	四	五	寅	六	七	卯	八	九	十
辰	十一	十二	十三	巳	十四	十五	午	十六	十七	十八	未	十九	廿
申	廿一	廿二	廿三	酉	廿四	廿五	戌	廿六	廿七	廿八	廿九	三十	三十一

右ノ日法ノ三十二ヲ置十二ヲ除キテ得ル処ニ二六六六〇八十九

小餘ノ数二分六六六ニ不盈者ヲ子ノ時トスヨノ数ヲ二ツ併セテ  
 五分三三三以下ハ丑時ニ又三ツアセテ七分九九九以下ハ寅ノ時  
 ナリ十〇分六六四以下ハ卯時ニ十三分三三三以下ハ辰ノ時ナリ  
 十五分九九六以下ハ巳ノ時ニ十八分六六六以下ハ午ノ時ニ二十一分  
 三三三以下ハ未ノ時ニ二十三分九九九以下ハ申ノ時ニ二十六分六六六以  
 下ハ酉ナリ二十九分三三三以下ハ戌ニ三十一分九九九以下ハ亥ノ  
 時ナリ三十二ニ滿ルハ又子ノ時ナリ

史歷解終





八百九十九加七百九十九本目八

